

七条中学校だより10月9号

京都市立七条中学校

令和8年10月14日

発行:校長 林 秀雄

最後の練習で大切にしてほしいこと

夏休み前から取り組みを始めた合唱の部も、いよいよ明日が、最後の練習日となります。ここまで本当によく頑張ってきました。8月からの全11回の、限られた時間の中で、クラスごとに試行錯誤を繰り返しながら練習を積み重ねてきました。最初は思うように声が出なかったクラスも、まとまりをつくることに苦労したクラスもあったでしょう。しかし皆さんは、その一つひとつを乗り越えながら、ここまでたどり着きました。

合唱練習が始まった頃は、正直なところ、合唱にあまり主体的ではなかった人もいたかもしれません。「なぜ歌わなければならないのだろう」「面倒だな」と感じていた人もいたでしょう。しかし、皆さんの練習の様子を見ていると、今は多くの人の気持ちが変わってきているのを感じます。クラスの合唱を少しでも良くしたいと思う人が増えている。仲間の歌声に耳を傾ける姿が増えている。指揮者や伴奏者、パートリーダーを支えようとする姿が見られる。そして何より、自分たちのクラスの合唱に誇りや愛着をもって取り組む姿が感じられます。私は、その気持ちの変容こそがとても大切なことだと思っています。

人は何かに本気で向き合った時に成長します。そして、自分だけでなく仲間とともに取り組むことで、さらに大きく成長します。皆さんは合唱を通して、その経験をしているのではないのでしょうか。中には、「まだ練習したい」「もう少し時間があればもっと良くなるのに」と思っている人やクラスもあるかもしれません。それだけ真剣に取り組んできた証です。

しかし、最後の練習で一番大切なのは、細かなミスをなくすことでも、完璧な合唱を目指すことでもありません。最後の練習で大切にしてほしいのは、クラスみんなが主体的に合唱に向き合い、心を一つにすることです。指揮者の思いを感じながら歌うこと。伴奏者の音に耳を傾けること。仲間の声を聴きながら歌うこと。そして、一緒にここまで頑張ってきた仲間を称え合い感謝の気持ちをもつことです。

明日の練習では、ぜひ周りを見渡してみてください。毎日ピアノに向かい練習してきた伴奏者がいます。人前に立つ重圧と向き合いながらクラスを引っ張ってきた指揮者がいます。仲間を支えてきたパートリーダーがいます。そして、この合唱を創り上げてきた仲間たちがいます。その一人ひとりの努力があったからこそ、今の合唱があります。

だから最後の練習は、焦る時間ではなく、自信を深める時間にしてください。不安を探す時間ではなく、これまで積み上げてきたものを確かめる時間にしてください。そして、これまでの自分たちの頑張りに自信をもってください。仲間を信頼してください。クラス一人ひとりの思いが同じ方向を向いた時、合唱は大きく変わります。

全員が主体的に取り組み、「このクラスの合唱をみんなで創る」という気持ちで最後の練習に臨んでください。練習が終わる頃には、「緊張するけれど、楽しみのようになってきた。」「この仲間とここまで頑張れてよかった。」そんな思いが生まれる時間になれば素敵です。

合唱に絶対の正解はありません。皆さんのクラスが、この仲間とともに悩み、考え、支え合いながらたどり着いた姿こそが、そのクラスの最適解です。明日の最後の練習では、その最適解をみんなで確かめ合ってください。明日、みんなの気持ちが一つになり、一人ひとりの思いが重なり合う。そんな時間になれば最高ですね。

金木犀はなぜ香るのか？ ～なぜ雄木と雌木があるのか？～

先日、金木犀について調べているうちに、また、新たな疑問が生まれました。「金木犀には雄木と雌木がある。では、なぜわざわざ木を雄木と雌木に分ける必要があったのだろうか？」皆さんは考えたことがあるでしょうか。

人間や動物には雄と雌があります。しかし、植物の多くは一つの花の中におしべとめしべの両方を持っています。つまり、一つの花だけで受粉することも可能です。ところが、金木犀やイチョウ、ヤナギ、ソテツ、ビワ、アオキなどは雄木と雌木が別々になっています。金木犀と同じように、雄の木と雌の木が協力しなければ種を残すことができません。では、なぜそんな面倒な仕組みになったのでしょうか。

実は、そこには生き残るための大切な理由があります。もし同じ木の花だけで受粉を繰り返すと、遺伝子の組み合わせが似通ってしまします。すると、病気や環境の変化に弱くなってしまう場合があります。一方、別の木同士で受粉すると、さまざまな特徴をもった子どもが生まれます。暑さに強いもの、寒さに強いもの、病気に強いものなど、多様な個体が生まれることで、種全体が生き残りやすくなるのです。言い換えれば、裏へ

「自分と同じものばかりを増やすのではなく、違う個体とつながることで未来への可能性を広げている」とも言えます。

このことは自然界だけの話ではないように思います。私たちも、自分一人では気付けない考えに出会ったり、友達や先生、家族と意見を交流したりすることで、新しい発見や成長につながります。異なる考えや個性が会うことで、より豊かなものが生まれるのです。

さらに面白いことがあります。金木犀は日本中に植えられていますが、多くは雄木だと考えられています。そのため実をつけることはほとんどありません。それなのに毎年たくさんの花を咲かせ、甘い香りを届けてくれます。もともとは昆虫を呼び寄せるための香りだったはずですが、今では私たち人間がその香りを楽しみ、挿し木で増やしながら守り続けています。

さて、ここで皆さんに問いです。もし世界中の人が全員同じ考え方だったら、社会はどうなるでしょうか。もし自然界にまったく違いが存在しなかったら、生き物たちは生き残れたのでしょうか。金木犀の香りについて調べていると、いつの間にか「多様性」や「つながり」という大きなテーマにたどり着きました。

秋の風に乗って漂う甘い香り。その香りの向こうには、生き物たちが何億年もの時間をかけて築いてきた知恵が隠されています。何気ない日常の中で、「なぜだろう？」と立ち止まってみる。そこから見えてくる世界は、思っている以上に広く、深いものかもしれません。

現在 学校だより 通算 96号